

## 令和4年度 「学校評価の結果」 < 学校生活 >

### < 学校生活についての考察 >

- ①1の「楽しい学校生活を送れているか」についての問いに対しては、全体では約7割の生徒が「そう思う」と回答しています。しかし、1・3年生は「そう思う」が8割を超えていますが、2年生は昨年度より低く約6割という回答になっているのが気になります。来年度に向けて、生徒の実態把握の洗い出し、その状況に応じた方策を検討していきたいと考えています。
- ②2の「自分から挨拶を心掛けている」についての問いに対しては、1・3年生は約8割ほどが「そう思う」と回答していますが、2年生は5割を切っています。挨拶は生活の基本です。2年生に限らず、全校で挨拶について考える機会を作るなど、来年度に向けての取り組みを生徒会と共に考えていければと思います。
- ③3の「学校のきまりを守って生活している」や4の「校内美化を意識して取り組んでいる」については、全体で9割が「そう思う」と回答しており、昨年度同様に規範意識と気持ちの良い環境づくりの意識の高さがうかがえます。安心・安全・気持ちの良い学校生活の基盤として今後も大事にしていきたいと考えます。
- ④5の「いばら祭や学校行事・校外実習・講演会・ボランティア活動に取り組んでいる」は、約7割以上の生徒が「そう思う」と回答しており、全体的に意欲的に取り組んでいると言えます。特にボランティア活動への参加については、今後も活性化が図れればと考えます。今年度からできたボランティア委員会の活動が、全校生徒のボランティア意識の高揚へとつながっていくような形になってくればと思います。
- ⑤6の「生徒会活動に協力し積極的に取り組んでいる」についての問いでは、1年生は8割の生徒が「そう思う」と回答しているのに対して、2・3年生は約6割から約7割の回答でした。また、昨年度との比較でも2・3年生は「そう思う」が9割を超えていたのに対して低い回答となっています。今後の生徒会活動の取り組みと参加意欲を引き出す活動内容も見直す必要はあるのではないかと思います。
- ⑥7の「登下校の際に、交通安全に気を付けている」についての問いに対しては、どの学年も9割以上が「そう思う」と回答しており、昨年度以上に安全意識が高まっています。
- ⑦8の『「自分もやればできる」とか「自分の良さ」を感じることができた』についての問いに対しては、全体では約6割の生徒が「そう思う」と回答しており、2・3年生については昨年度より伸びています。本校が目指す生徒像の一つとして、自己の良さを理解し、自分もやればできるという自信を多くの生徒がつけられるように、様々な活動や学習場面において活躍の場面や表現の機会を作っていければと思います。
- ⑦最後に保護者の評価で「学校の話をしてくれる。困った時に相談をしてくれる」の問いに対しては、6割以上の家庭で「そう思う」と回答がありました。昨年度と比べてやや低い数値となっていますが、多くの家庭で学校の話や相談事についての会話がなされていると言えます。この親子の信頼関係は大切な点として、親子の会話を増やし、悩みごとの相談がしやすい環境づくりを各家庭には今後もお願いしたいと思います。

### < 保護者から出された質問と回答 >

「生徒の理解を深めるために、先生方はどのような研修会に参加しているのですか」という質問にお答えします。令和4年度は以下の研修会に参加してきました。

- 「見えない障がいを見える化する的方法と支援」(5月 講師 鶴賀病院副委員長)
  - 「生きづらさを抱える子どもたちへの理解と教育的支援のあり方を考える」(7月 基調講演 富山病院心療内科部長)
  - 「障がい者雇用フォーラム」(9月)
  - 「若者たちの生きづらさを考える 意見交換会」(10月)
  - 「子ども理解とその支援 ～SSWの視点と実践から～」(11月)
  - 「ヤングケアラー支援対応研修会」(12月)
- また、上記の研修会の他に、全職員を対象とした職員研修として以下の研修を実施しています。
- スクールカウンセラーを講師に「生徒理解のための職員研修」(4月)
  - 「発達障害など特別に支援が必要な生徒の進路指導に関する職員研修」(1月 講師 武蔵野東高等専修学校 事業責任者)